

「論議」というと、それぞれの意見をはげしくぶつけ合う様子を思いうかべると
思います。お釈迦さまの十人の優れた弟子の一人にも、「論議第一(ろんぎだいいち)」
と呼ばれた人がいました。

名前を迦旃延尊者(かせんねんそんじゃ)といいます。

「論議第一」というと、誰よりも自己主張が強く、自分の考えを譲らない人なの
ではないかと思ってしまうのですが、実は、仏教の「論議」は、現在使われている論
議とは意味が異なります。自分の意見を強く主張し、言い争った、現在でいうところ
の論議をしてしまった弟子たちについて、「彼らは、自分の見解に強く執着し、
とらわれすぎているのだ」と、迦旃延尊者は、冷静に分析しています。

仏教の「論議」は、「お釈迦さまの説いた教えを、深く理解し、正確に伝える」
ことをいうのです。仏典の中にも、迦旃延尊者を讃える次のような言葉がでてき
ます。

「お釈迦さまが説かれたことを詳しく丁寧に分析し説明するものの中で、最も優
れているのは、迦旃延尊者である」

迦旃延尊者は、誰よりもお釈迦さまの教えを深く理解し、正確に伝えることがで
きた人なのです。

弟子たちの中で、お釈迦さまの教えを一度聞いただけでは理解できないものがい
たり、教えをもっと詳しく知りたい弟子がいると、多くは迦旃延尊者のもとに趣
き解説してもらったといえます。

迦旃延尊者は、インドの西部にあったアヴァンティという国で生まれたといわれ
ています。アヴァンティは、お釈迦さまが主に活動されたインド北東部からは、か
なり離れたところにありました。

迦旃延尊者は、アヴァンティの国王の命令で、遠い道のりをこえて、お釈迦さま
のもとに出向きます。お釈迦さまを国に迎えるためだったのですが、お釈迦さまそ
のひと、教えにふれた迦旃延尊者は、深く心を打たれ、出家をし、仏弟子として修
行を積み、「論議第一(ろんぎだいいち)」と呼ばれるようになったのです。

教えを深く理解し、正確に伝えることに優れた迦旃延尊者は、後に、故郷に戻
り、国王や人々に、お釈迦さまの教えを説き、仏教をひろめていくのです。